

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

1 令和7年度 重点目標

「できた！」が増える学校

2 重点を実現するための3つの柱

- 【知】正しい判断力と創造的な思考力、豊かな表現力の育成
 【徳】思いやりの心と感性、豊かな実践力の育成
 【体】強靱な意思と健康でたくましい心身の育成

達成状況

A：十分達成されている

B：おおむね達成されている

C：いくつか改善を図る必要がある D：達成が不十分であり、改善を要する

3 自己評価結果

経営の重点	評価項目	自己評価		学校関係者	
		達成状況	評価及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
まなびあう	①子どもの成功体験を積み上げ、自己肯定感を高めることができたか。	A	児童・保護者・教職員全てで肯定的評価が多かった。スモールステップでの指導が成功体験に繋がった。今後は発達段階に応じた資質・能力の育成を学年間で共有し、児童自身が自らの成長の価値を実感できる仕組み作りを推進する。	A	A
	②主体的に解決する意欲をもたせる問いや見通しを生む教材化や教師の関わりを意識して授業作りを行っていたか。	B	児童の肯定的な回答は80%あり、子どもが問いを生み意欲的に取り組ませる工夫はできた。しかし、「よく当てはまる」は38%と他項目より低いので、子ども同士が話し合う活動を今以上に取り入れたり、話し合いを価値付けたりして、協働的に学ぶ授業づくりを進め、みんなで学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりを推進していく。	B	A
	③デジタル教科書の活用やICTを通じた協働学習など、クロームブックを活用した授業づくりに取り組んでいたか。	B	子どもの学習に対する意欲を高めたり、学習内容を分かりやすくしたりすることには役立ってはいるが、学習外の利用や情報モラルに課題が残る。職員間でも活用頻度に差があるため、低学年での活用場面の検討や、ICTの活用方法を共有する校内研修を充実させ、更なる系統的な情報モラル教育を推進する。	B	A
	④体育の授業改善や、休み時間の運動遊びの奨励など、子どもの体力向上へ向けた取組を行っていたか。	C	児童の意識は高いが、放課後の運動習慣について保護者との意識差が見られる。体育の授業改善や鉄棒や跳び箱週間などで一定期間練習できる環境づくりは有効だが、全体的な体力向上が課題である。今後は6年間を通じた記録の蓄積や、体を動かすきっかけ作りを工夫し、運動の日常化を図る。	B	A
かかわりあう	⑤食指導を通して、自分の心や体の状態を知り、健康な心と体を大切にしていける意識を育てることができたか。	B	食指導で栄養のことやマナーのことなどを指導しているが、好き嫌いが多かったり、残食に対する抵抗感が薄かったりすることが課題である。栄養面だけでなく、生産者への感謝や成長へのメリットを多面的に伝え、健康な心身を大切にする意識をさらに育てていく。	B	A
	⑥目標をもって行事に臨み、達成感を味わえるように指導することができたか。	A	行事への取組は高い満足度を得ているが、一部に受け身な姿勢も見られる。今後は「やらされる行事」から脱却するため、それぞれの行事の意義をしっかりと伝えて目指す姿を明確にし、一人一人の成長を価値付けることで、更なる達成感を味わわせる。	A	A

	⑦委員会・クラブ・太陽っ子活動などで、責任感や協調性を育む関わりをすることができたか。	A	太陽っ子活動を通じた人間関係の構築は非常に良好である。課題として委員会活動等での責任感が薄い部分が挙げられるため、自分たちの働きが学校に貢献している実感を育む支援を行う。「ありがとう」が溢れる活動を通じ、互いに認め合う風土を醸成する。	A	A
	⑧子どもたちが、自分から進んで元気な挨拶をするように指導ができたか。	B	児童の自尊感情は高いが、保護者から見た挨拶には厳しめの評価が見られる。生活委員会と連携した挨拶運動などの成果が出て朝の挨拶はよくなってきたが、休み時間や地域での挨拶には課題がある。今後も挨拶のよさを実感させたり、挨拶がしたくなる環境を整えたりして、進んで挨拶できる子を育てていく。	A	A
つながりあう	⑨困り感のある児童への合理的配慮や関係者・関係機関との連携、いじめの早期発見・早期対応に努めていたか。	B	多くの児童が相談できているが、25%が「相談できない」と回答しており、安心感の醸成が課題である。子どもが話しやすい関係づくりを心がける。また、組織的ないじめの早期発見・早期対応を継続していくとともに、放課後の出来事や、SNSなどのトラブルに関しては、家庭におけるルール作りなどの啓発を促進していく。	B	A
	⑩チャレスタや朝の活動（朝学習・朝読書）などの、学校と家庭が一体となった学習習慣づくりや、学習環境づくりを推進していたか。	B	チャレスタの紹介等により意欲は向上しているが、子どもの意識差が課題である。オクリンクを用いた相互評価など、児童同士で高め合う取組を広げるとともに、保護者にも他の子の取組を見てもらうなど、継続的な努力への価値付けを行い、学校と家庭が一体となった学習習慣の確立を粘り強く推進する。	B	A
	⑪学校ホームページで2週に1度は学習や生活の様子の更新、懇談や時間割等で学校情報を積極的に発信していたか。	B	保護者の満足度は高いが、学年による更新の差があるので、できる限り揃えていけるように、学年内での役割分担を明確にしたり、どの方法がタイムリーに情報を発信できるのか検証したりして体制を見直していく。	A	A

【学校評議員・学校関係者評価委員の意見】

- ・子どもの体力向上に関して、公園等で遊び方の制限等があり、思い切り遊べる環境が減っている。グラウンドの活用も含めて子どもたちが遊べる場の提供を考えていきたい。その際、子どももルール作りに参加することで、ルールを守ろうという意識が高まるのではないかな。
- ・挨拶に関しては、全体的にはしている子が多いと感じるが、個人差も大きい。挨拶を相手に伝えるという気持ちをもって、元気に挨拶ができるようになるとよりよい。
- ・最近はオンラインゲームやSNSを子どもでもやっている子が多いみたいだが、それに伴うトラブルも多いと聞く。放課後の出来事が中心なので、学校だけでは対応に限界があると思うので、家庭での協力を啓発していく。
- ・コロナ前と違い、様々な制限のある中で、先生方、PTA、図書ボランティアなど多くの人たちの関わりのおかげで、子どもたちはのびのびと学校生活を送っているように思う。